



東北大学

2009年9月17日

報道機関 各位

東北大学加齢医学研究所

二輪車乗車と脳の活性化の関係 第2回目の研究開始について

国立大学法人東北大学(総長・井上明久/所在・宮城県仙台市青葉区片平2-1-1)の加齢医学研究所・川島隆太研究室は、ヤマハ発動機株式会社(代表取締役社長・梶川 隆/所在・静岡県磐田市新貝2500)と2009年9月より「二輪車乗車と脳の活性化の関係」についての第2回目の研究を開始することとなりました。終了は2010年12月を予定しています。

今回の研究は、脳活性化における因果関係を乗り物の種類などとの関連で測定し分析、市場でのマササーバイを長期間行い活性効果の経時変化を測定します。

ヤマハ発動機株式会社が参画する目的は、川島研究室による“スマートエイジング社会”を目指す研究を通じて、二輪車乗車と脳の活性化の関係をさらに深く研究し、二輪車市場の活性化につなげることにあります。ヤマハ発動機株式会社では、1)研究車輛の提供(二輪車他)、2)研究テストコースの提供、3)被験者の募集、4)スタッフの派遣を担当します。

2008年の第1回目の結果では、1)二輪車に乗車することにより、運転者の脳が活性化されること、2)現役ライダーとブランクのあるライダーとでは脳の使い方や活性化に違いが生じること、3)日常生活に二輪車乗車を取り入れることにより様々な脳認知機能が向上しさらにメンタルヘルスにおいてもストレス軽減や脳と心の健康にポジティブな影響を与えること等が確認されました。

第2回目の今回は、「テスト1」(2009年9月～10月)と「テスト2」(2009年10月～2010年12月)を設定。「テスト1」では、車両や走行環境、二輪操作の違い等が、脳活性化状況にどのような違いとなるかの調査を行います。「テスト2」は、経時変化と脳活性化状況の関連性を調べるもので、調査対象も広げ行います。

(本件に関するお問い合わせ先)

東北大学加齢医学研究所 脳機能開発研究分野

E-mail: fbi@idac.tohoku.ac.jp

《研究の概要》

【テスト1】

実 施：2009年9月～10月

場 所：スポーツランド SUGO（宮城県柴田郡村田町）

計測機材：携帯型光トポグラフィ技術試作機（日立基礎研）

被 験 者：現役ライダー

【テスト2】

実 施：2009年10月～2010年12月

場 所：東京都内及び周辺

検証方法：認知機能検査、メンタルヘルスに関するアンケート等

被 験 者：期間中、東京近郊 YSP（ヤマハスポーツプラザ）で二輪車を
購入するユーザー（任意参加）